

Title	文化言語の多様な子どもの発達障害症状の実態把握と認知特性に基づく支援法の確立
Sub Title	Exploring neurodevelopmental disorders in culturally linguistically diverse children (CLD) : developing tailored educational support strategies based on cognitive characteristics
Author	北, 洋輔(Kita, Yosuke) 加賀, 佳美(Kaga, Yoshimi) 鈴木, 浩太(Suzuki, Kota) 櫻井, 千穂(Sakurai, Chiho) 奥村, 安寿子(Okumura, Yasuko)
Publisher	
Publication year	2025
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2024.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究では、文化的・言語的に多様な背景をもつ子ども（CLD児）に着目し、発達障害の疑いのあるCLD児に対して、認知特性に応じた支援法の確立を目的とした。まず、調査研究からは、知的発達症および自閉スペクトラム症に該当するCLD児が高い割合で存在することを示し、彼らへの教育的支援のニーズの高さを明らかにした。次に、実験研究に基づいてCLD児の認知特性を評価する複数の評価法を開発し、アセスメントバッテリーの完成に至った。最後に、アセスメントに基づいた支援実践を行い、CLD児への支援の有効性が認められた。本研究を通して、発達障害の疑いのあるCLD児に対する支援の方向性が示されたと考えられる。 The study aims to develop educational support strategies for children with cultural and linguistic diversity (CLD), particularly those at risk of neurodevelopmental disorders (NDD). Initial surveys revealed that CLD children experience a higher prevalence of intellectual developmental disorders and autism spectrum disorders compared to Japanese children, highlighting the urgent need for educational support. In follow-up experimental studies, we created several tasks to evaluate the cognitive characteristics of CLD children, such as executive function and social cognition, and built a cognitive assessment battery based on these tasks. Subsequently, we implemented preliminary educational interventions for CLD children, which positively influenced the children's academic performance and psychological adaptation in school. These findings underscore the effectiveness of tailored support strategies and provide a clear path forward for educational support for CLD children at risk of NDD.
Notes	研究種目：基盤研究 (C) (一般) 研究期間：2019～2024 課題番号：19K02944 研究分野：発達心理学
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_19K02944seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

令和 7 年 6 月 19 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2024

課題番号：19K02944

研究課題名（和文）文化言語の多様な子どもの発達障害症状の実態把握と認知特性に基づく支援法の確立

研究課題名（英文）Exploring Neurodevelopmental Disorders in Culturally Linguistically Diverse Children (CLD): Developing Tailored Educational Support Strategies Based on Cognitive Characteristics

研究代表者

北 洋輔 (Kita, Yosuke)

慶應義塾大学・文学部（三田）・准教授

研究者番号：90627978

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、文化的・言語的に多様な背景をもつ子ども（CLD児）に着目し、発達障害の疑いのあるCLD児に対して、認知特性に応じた支援法の確立を目的とした。まず、調査研究からは、知的発達症および自閉スペクトラム症に該当するCLD児が高い割合で存在することを示し、彼らへの教育的支援のニーズの高さを明らかにした。次に、実験研究に基づいてCLD児の認知特性を評価する複数の評価法を開発し、アセスメントバッテリーの完成に至った。最後に、アセスメントに基づいた支援実践を行い、CLD児への支援の有効性が認められた。本研究を通して、発達障害の疑いのあるCLD児に対する支援の方向性が示されたと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第一の本研究の学術的意義は、本邦で初めて文化的・言語的に多様な背景をもつ子ども（CLD児）において、発達障害の疑いのある子どもの割合を示した点である。この知見は、将来的に他の研究の基礎データとしても活用されうものである。第二には、CLD児に適応可能な認知課題を開発した点である。言語環境の影響を最小化したものであるため、今後異文化比較の観点などから国際共同研究としての発展が期待される。本研究の社会的意義は、発達障害の疑いのあるCLD児に対してエビデンスに基づいた支援を行った点である。一人ひとりの特性に合わせた支援を行うことは、彼らの健やかな育ちを科学的に支える臨床的意義も大きいと考える。

研究成果の概要（英文）：The study aims to develop educational support strategies for children with cultural and linguistic diversity (CLD), particularly those at risk of neurodevelopmental disorders (NDD). Initial surveys revealed that CLD children experience a higher prevalence of intellectual developmental disorders and autism spectrum disorders compared to Japanese children, highlighting the urgent need for educational support. In follow-up experimental studies, we created several tasks to evaluate the cognitive characteristics of CLD children, such as executive function and social cognition, and built a cognitive assessment battery based on these tasks. Subsequently, we implemented preliminary educational interventions for CLD children, which positively influenced the children's academic performance and psychological adaptation in school. These findings underscore the effectiveness of tailored support strategies and provide a clear path forward for educational support for CLD children at risk of NDD.

研究分野：発達心理学

キーワード：発達障害 多言語 特別支援教育 外国人児童生徒 日本語教育 認知神経 アセスメント 子ども学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

人・モノの国際的な移動を背景に、日本の学校教育機関では、国際結婚の子どもや外国籍児童など文化的・言語的に多様な背景をもつ子ども（Culturally Linguistically Diverse Children：CLD 児）が増加している。学校教育機関では、増加する CLD 児への対応として、加配教員配置の予算計上や、学校教育法の施行規則一部改正に基づく「特別の教育課程」としての日本語指導等を急速に進めてきた。こうした対応により、学校環境への適応をみせる CLD 児は年々増えており、児童生徒間での異文化交流など波及効果も認められる。

一方、CLD 児の中でも学校教育機関での対応が十分でないと考えられる子どもが存在する。それが、発達障害の疑いがあり、特別な教育的支援を必要とする CLD 児である。対応が十分でない背景には2つの要因が存在する。第一には、日本語教育の領域では、知能や認知特性のアセスメント方法が十分に普及していないという現状である。第二には、特別支援教育の領域では、日本語指導の方法が必ずしも取り入れられていないという現状がある。これら2つの要因が背景となり、CLD 児に対峙した際に、言語環境の問題なのか、発達上の問題なのか、特定することが難しく、そのために適切な指導にもつながらないという深刻な問題がある。

こうした社会的・学術的背景をもとに、本研究では「学校教育において、発達障害の疑いがある CLD 児をどのように支援するべきか」という問いを設定した。

2. 研究の目的

研究上の問いに対して、本研究では「発達障害の疑いがある CLD 児の教育的ニーズに応じた支援法の確立」を主目的として設定した。主目的を到達するために、具体的に以下の三課題の検討を行うこととした。

（1）発達障害の疑いのある CLD 児の実態調査

特別な教育的支援を必要とする CLD 児については、散発的な学術的報告は認められる。しかしながら、調査の地域性に偏りが認められたり、信頼性のある調査項目を使用していないなど、現在の本邦の実態を反映しているとは言い難い側面がある。そのため、教育的支援の現状と需要を見極めることを目的として、発達障害の疑いのある CLD 児の実態調査を行う。

（2）アセスメントバッテリーの開発

特別支援教育では、知能や認知特性のアセスメントに基づいて指導計画を立て、指導実践を行う。しかし、本邦の CLD 児を対象とした体系的なアセスメント手法は確立されておらず、実施の面でも課題が多い。特に、CLD 児に対しては、言語環境の影響を考慮した上での知能や認知特性のアセスメントが不可欠である。そこで、アセスメントに基づいた支援法につなげることを目的として、言語環境の影響を最小化した知能や認知特性のアセスメントバッテリーの開発を行う。

（3）アセスメントに基づいた支援の実施

日本語適応教室では、教員免許を持たない支援員が指導することもあり、障害を含めた教育的ニーズに応じた支援実施が困難である。一方、既存の学校教育に新たな支援環境を導入するのは、時間や労力の点で現実的ではない。そこで、上述のアセスメントをもとに支援計画の策定を行い、既存の個別環境（特別支援学級や日本語適応教室）で、支援の実現性や効果を検討する。

3. 研究の方法

（1）発達障害の疑いのある CLD 児の実態調査

質問紙および直接面談による調査研究を行う。それぞれの発達障害の臨床症状を評価する標準化尺度を用いた上で、カットオフ値を超える該当児の割合等を算出する。日本人との比較対象を行うため、日本人を対象とした調査を行ったうえで、CLD 児の実態調査を行い、その多寡を検討する。

（2）アセスメントバッテリーの開発

実験心理学的手法および神経生理学的手法による実験研究を行う。言語環境による影響を最小化するために、言語能力を要求しない認知課題を新たに作成する。課題に対する行動成績（正答率や反応時間）および神経生理学的データから、アセスメントツールとしての妥当性や問題点を検討する。

（3）アセスメントに基づいた支援の実施

CLD 児を対象とした介入実践を行う。（2）で開発したアセスメントを用いて、対象児の知能および認知特性を評価する。知能および認知特性に応じた支援計画を策定し、その支援計画をもとに在籍校などで指導を実践する。一定期間指導を実践した上で、指導の実現性と効果とともに、改善点を検討する。

4. 研究成果

(1) 発達障害の疑いのある CLD 児の実態調査

3000 名を超える日本人の子どもを対象とした調査研究を完遂した。その結果、自閉スペクトラム症 (ASD) や注意欠如多動症 (ADHD) の推定有病率が判明した (Table1)。その上で、本調査で使用した尺度を用いて、CLD 児を対象とした調査研究を完遂した。その結果、知的発達症および ASD に該当する CLD 児が、日本人の子どもと比較して、高い割合で存在することが明らかとなった (Table 2)。本知見は、CLD 児について、特定の発達障害の疑いある子どもが多い可能性を示しており、国内でも数少ない調査知見と位置づけられる。

Table1 日本人の発達障害の推定有病率

	Parent rating (N = 1775)	Teacher rating (N = 430)	χ^2 values
ADHD only	3.9 [3.1–5.0]	2.3 [1.1–4.2]	2.59 ^{NS}
ASD only	0.3 [0.1–0.7]	3.0 [1.6–5.1]	29.22***
SLD only	1.7 [1.1–2.4]	6.7 [4.6–9.5]	33.95***
ADHD × ASD	1.1 [0.6–1.7]	2.1 [1.0–3.9]	2.89 ^{NS}
ADHD × SLD	0.6 [0.3–1.1]	1.2 [0.4–2.7]	1.42 ^{NS}
ASD × SLD	0.2 [0.1–0.6]	2.8 [1.5–4.8]	31.62***
ADHD × ASD × SLD	0.2 [0.1–0.6]	2.1 [1.0–3.9]	20.60***

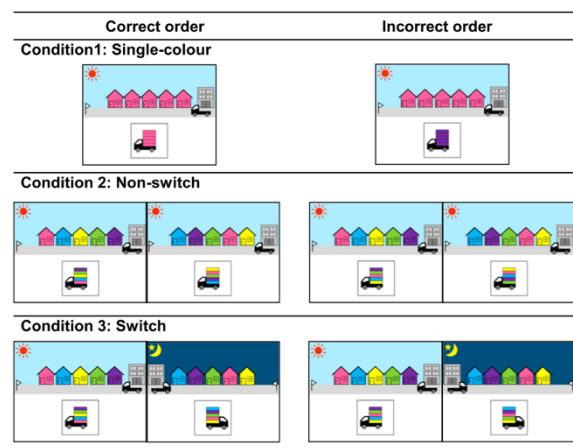
Table 2 CLD 児における発達障害の可能性

		Mean (SD)	# of affected (%)	χ^2
Intelligence	FSIQ	84.4 (13.6)	4 (15%)	14.4
	ADHD-RS Total	9.0 (6.1)	0 (0%)	0.7
	SRS-2 Total	61.6 (10.4)	6 (26%)	59.8
Neurodevelopmental disorders	RWC (Japanese)	3.4 (2.6)	4 (17%)	11.8
	RWC (Spanish)	4.1 (3.1)	4 (19%)	12.6
Adaptive behavior	VABS-II Total	104.7 (16.0)	0 (0%)	0.0
Quality of Life	KINDL	65.2 (8.6)	0 (0%)	0.0

(2) アセスメントバッテリーの開発

評価をする特性に合わせて複数の課題を開発した。具体的には、実行機能・社会性認知・音韻認知・協調運動機能を評価する課題をそれぞれ開発し、その有効性を検討した。Figure 1 は実行機能のうち、シフティング (shifting) を評価する新規課題である。この課題は、言語発達水準が 7 歳程度の知的発達症児にも実施可能であることが明らかとなった。そのうえで、言語能力に由来しないシフティング能力の高低を評価することが可能となった。これらの知見から、言語環境の影響を最小化したうえで、CLD 児の特性を多角的に評価しえるアセスメントバッテリーの有効性が示されたと考えられた。

Figure 1 シフティング課題の一例

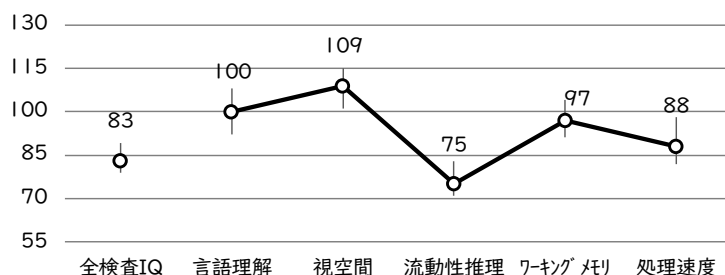


(3) アセスメントに基づいた支援の実施

CLD 児を対象とした介入実践を行った。実践を行った子どものうち一例の知能プロフィールを Figure 2 に示す。対象児は、日本語と英語環境に育つ CLD 児であり、医療機関からは、境界知能および ADHD の可能性が指摘された。一方、上述したアセスメントを用いたところ、実行機能の脆弱性および言語種にかかわらず音韻認知の弱さが示された。

このアセスメントに基づいて、実行機能に配慮した支援計画を策定し、在籍校と協力した上で指導実践を行った。配慮としては、課題の切替時に、教科担任から個別の机間指導を受けることや、課題の遂行において一定程度の時間猶予が認められることとなった。その結果、対象児の学業成績は、支援計画のない時期と比較して、向上が認められた。対象児への支援は、アセスメントに基づいたことで初めて実施されたものであり、少数事例とはいえ、本研究の一連の成果が児童生徒への支援効果として示されたものと位置づけられる。

Figure 2 対象児一例の知能プロフィール (実データを改変)



(4) まとめ：到達点と問題点

本研究からは、実態調査から支援実践を通して、発達障害の疑いがある CLD 児に対して、教育的ニーズに応じた支援が一定程度達成されたものと考えられる。一方で、支援は少数事例にとどまっており、支援効果の科学的検証や社会実装には至っていない。今後は、アセスメント方法の普及とともに、教育現場におけるランダム化比較試験等を通して、支援効果の検証が望まれる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 35件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 29件）

1. 著者名 Yasunaga Masanori, Miyaguchi Hideki, Ishizuki Chinami, Kita Yosuke, Nakai Akio	4. 巻 13
2. 論文標題 Cognitive Orientation to Daily Occupational Performance: A Randomized Controlled Trial Examining Intervention Effects on Children with Developmental Coordination Disorder Traits	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Brain Sciences	6. 最初と最後の頁 721～721
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/brainsci13050721	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 Gherghel Claudia, Yasuda Shoko, Kita Yosuke	4. 巻 200
2. 論文標題 Interaction during online classes fosters engagement with learning and self-directed study both in the first and second years of the COVID-19 pandemic	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Computers & Education	6. 最初と最後の頁 104795～104795
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.compedu.2023.104795	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 Ikeda Yoshifumi, Kita Yosuke, Oi Yuhei, Okuzumi Hideyuki, Lanfranchi Silvia, Pulina Francesca, Mammarella Irene Cristina, Allen Katie, Giofre David	4. 巻 11
2. 論文標題 The Structure of Working Memory and Its Relationship with Intelligence in Japanese Children	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Intelligence	6. 最初と最後の頁 167～167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/jintelligence11080167	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamazaki Aya, Kuroda Tomoko, Kawasaki Nami, Kato Keiichi, Shimojima Yamamoto Keiko, Iwasa Takeshi, Kuwahara Akira, Taniguchi Yuka, Takeshita Toshiyuki, Kita Yosuke, Mikami Mikio, Irahara Minoru, Yamamoto Toshiyuki	4. 巻 69
2. 論文標題 Preimplantation genetic testing using comprehensive genomic copy number analysis is beneficial for balanced translocation carriers	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Human Genetics	6. 最初と最後の頁 41～45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s10038-023-01202-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 SHIRAKAWA YUKA, KITA YOSUKE, SUZUKI KOTA, KAGA YOSHIMI, KITAMURA YUZUKI, OKUZUMI HIDEYUKI, INAGAKI MASUMI	4. 巻 41
2. 論文標題 Effects of Dopaminergic Neurotransmission and Neural Activity Involved in Motor Response Inhibition on Motor Coordination Function	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Physiological Psychology and Psychophysiology	6. 最初と最後の頁 120～131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5674/jjppp.2302si	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Okumura Yasuko, Kita Yosuke, Kitamura Yuzuki, Oyama Hoko	4. 巻 7
2. 論文標題 Pre-elementary Children With Imperfect Letter-Name Knowledge Are at Great Risk of Reading Difficulty in First Grade: One-Year Longitudinal Study in Japanese Hiragana	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/educ.2022.758098	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Ueda Riyo, Okada Takashi, Kita Yosuke, Ukezono Masatoshi, Takada Miki, Ozawa Yuri, Inoue Hisami, Shioda Mutsuki, Kono Yoshimi, Kono Chika, Nakamura Yukiko, Amemiya Kaoru, Ito Ai, Sugiura Nobuko, Matsuoka Yuichiro, Kaiga Chinami, Shiraki Yasuko, Kubota Masaya, Ozawa Hiroshi	4. 巻 12
2. 論文標題 Quality of life of children with neurodevelopmental disorders and their parents during the COVID-19 pandemic: a 1-year follow-up study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-08273-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Yamazaki Ryuichi, Inoue Yuki, Matsuda Yuki, Kodaka Fumitoshi, Kitamura Yuzuki, Kita Yosuke, Shigeta Masahiro, Kito Shinsuke	4. 巻 310
2. 論文標題 Laterality of prefrontal hemodynamic response measured by functional near-infrared spectroscopy before and after repetitive transcranial magnetic stimulation: A potential biomarker of clinical outcome	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychiatry Research	6. 最初と最後の頁 11444～11444
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psychres.2022.114444	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Kita Yosuke, Yasuda Shoko, Gherghel Claudia	4. 巻 12
2. 論文標題 Online education and the mental health of faculty during the COVID-19 pandemic in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-12841-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Shirakawa Yuka, Yamazaki Ryuichi, Kita Yosuke, Kitamura Yuzuki, Okumura Yasuko, Inoue Yuki, Matsuda Yuki, Kodaka Fumitoshi, Shigeta Masahiro, Kito Shinsuke	4. 巻 33
2. 論文標題 Repetitive transcranial magnetic stimulation decreased effortful frontal activity for shifting in patients with major depressive disorder	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 NeuroReport	6. 最初と最後の頁 470~475
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/WNR.0000000000001806	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Egashira Yuka, Kaga Yoshimi, Gunji Atsuko, Kita Yosuke, Kimura Motohiro, Hironaga Naruhito, Takeichi Hiroshige, Hayashi Sayuri, Kaneko Yuu, Takahashi Hidetoshi, Hanakawa Takashi, Okada Takashi, Inagaki Masumi	4. 巻 16
2. 論文標題 Detection of deviance in Japanese kanji compound words	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Human Neuroscience	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2022.913945	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Inoue Yoko, Machida Osamu, Kita Yosuke, Yamamoto Toshiyuki	4. 巻 11
2. 論文標題 Need for revision of the ACMG/AMP guidelines for interpretation of X-linked variants	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Intractable & Rare Diseases Research	6. 最初と最後の頁 120~124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5582/iridr.2022.01067	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Kitamura Y., Okumura Y., Shirakawa Y., Ikeda Y., Kita Y.	4. 巻 66
2. 論文標題 Characteristics of shifting ability in children with mild intellectual disabilities: an experimental study with a task - switching paradigm	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Intellectual Disability Research	6. 最初と最後の頁 853～864
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jir.12974	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Sakihara Kotoe, Kita Yosuke, Suzuki Kota, Inagaki Masumi	4. 巻 45
2. 論文標題 Modulation effects of the intact motor skills on the relationship between social skills and motion perceptions in children with autism spectrum disorder: A pilot study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Brain and Development	6. 最初と最後の頁 39～48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.braindev.2022.09.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 井之上 寿美、北 洋輔、小沢 浩、河野 芳美、河野 千佳、白木 恭子、塩田 睦記、雨宮 馨、中村 由紀子、杉浦 信子、小沢 倫理	4. 巻 54
2. 論文標題 神経発達症児における血清亜鉛値の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 脳と発達	6. 最初と最後の頁 356～358
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11251/ojjsen.54.356	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 北洋輔	4. 巻 97
2. 論文標題 【神経疾患と表情】視線と表情の関連	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 脳神経内科	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 小沢倫理, 小沢浩, 杉浦信子, 白川由佳, 北洋輔	4. 巻 126
2. 論文標題 乳幼児・児童のスマートフォン, タブレットの利用状況と生活実態調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本小児科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1489-1497
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Ueda Riyo, Iwasaki Masaki, Kita Yosuke, Takeichi Hiroshige, Saito Takashi, Nakagawa Eiji, Sugai Kenji, Okada Takashi, Sasaki Masayuki	4. 巻 132
2. 論文標題 Improvement of brain function after surgery in infants with posterior quadrant cortical dysplasia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Clinical Neurophysiology	6. 最初と最後の頁 332~337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.clinph.2020.11.020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 小沢 浩、北 洋輔	4. 巻 53
2. 論文標題 学校生活における「困った気持ち」をみつけるための学校自己採点法の活用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 脳と発達	6. 最初と最後の頁 63~65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11251/ojjsen.53.63	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Ueda Riyo, Okada Takashi, Kita Yosuke, Ozawa Yuri, Inoue Hisami, Shioda Mutsuki, Kono Yoshimi, Kono Chika, Nakamura Yukiko, Amemiya Kaoru, Ito Ai, Sugiura Nobuko, Matsuoka Yuichiro, Kaiga Chinami, Kubota Masaya, Ozawa Hiroshi	4. 巻 12
2. 論文標題 Psychological Status Associated With Low Quality of Life in School-Age Children With Neurodevelopmental Disorders During COVID-19 Stay-At-Home Period	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyt.2021.676493	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Ueda Riyo, Kaga Yoshimi, Kita Yosuke, Nakagawa Eiji, Okada Takashi, Inagaki Masumi	4. 巻 21
2. 論文標題 Clinical profile of reading ability and reading and writing achievement of children with borderline full-scale intellectual quotient: a prospective study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Pediatrics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12887-021-02865-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Nakamura Tatsuya, Kita Yosuke, Fujimoto Junpei, Ayuzawa Koichi, Ozawa Hiroshi	4. 巻 149
2. 論文標題 Hyoid bone movement during swallowing and mechanism of pharyngeal residue in patients with profound intellectual and multiple disabilities	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology	6. 最初と最後の頁 110849~110849
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijporl.2021.110849	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 杉浦 信子 , 小沢 倫理 , 三橋 翔太 , 北 洋輔 , 小沢 浩	4. 巻 61
2. 論文標題 注意欠如・多動症の児童への投薬による学習態度の変化について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 239-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Hirata Shogo, Kita Yosuke, Suzuki Kota, Kitamura Yuzuki, Okuzumi Hideyuki, Kokubun Mitsuru	4. 巻 6
2. 論文標題 Motor Ability and Mental Health of Young Children: A Longitudinal Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/feduc.2021.725954	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Yamamoto Hisako, Nakagawa Eiji, Kita Yousuke, Kaga Yoshimi, Inagaki Masumi	4. 巻 41
2. 論文標題 Effect of anti - attention - deficit hyperactivity disorder (ADHD) medication on clinical seizures and sleep EEG: A retrospective study of Japanese children with ADHD	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 511～521
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12215	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Ueda Riyo, Okada Takashi, Kita Yosuke, Ozawa Yuri, Inoue Hisami, Shioda Mutsuki, Kono Yoshimi, Kono Chika, Nakamura Yukiko, Amemiya Kaoru, Ito Ai, Sugiura Nobuko, Matsuoka Yuichiro, Kaiga Chinami, Kubota Masaya, Ozawa Hiroshi	4. 巻 11
2. 論文標題 The quality of life of children with neurodevelopmental disorders and their parents during the Coronavirus disease 19 emergency in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-82743-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Gherghel Claudia, Yasuda Shoko, Kita Yosuke	4. 巻 -
2. 論文標題 How should time abroad be spent? Effects of social interaction and out-of-class study time while abroad on foreign language proficiency and use	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Multilingual and Multicultural Development	6. 最初と最後の頁 1～15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/01434632.2021.2016775	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Suzuki Kota, Kita Yosuke, Shirakawa Yuka, Egashira Yuka, Mitsuhashi Shota, Kitamura Yuzuki, Okuzumi Hideyuki, Kaga Yoshimi, Inagaki Masumi	4. 巻 153
2. 論文標題 Reduced Nogo-P3 in adults with developmental coordination disorder (DCD)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Psychophysiology	6. 最初と最後の頁 37～44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijpsycho.2020.04.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Kaga Yoshimi, Ueda Riyo, Tanaka Miho, Kita Yosuke, Suzuki Kota, Okumura Yasuko, Egashira Yuka, Shirakawa Yuka, Mitsuhashi Shota, Kitamura Yuzuki, Nakagawa Eiji, Yamashita Yushiro, Inagaki Masumi	4. 巻 42
2. 論文標題 Executive dysfunction in medication-naive children with ADHD: A multi-modal fNIRS and EEG study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Brain and Development	6. 最初と最後の頁 555～563
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.braindev.2020.05.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Ueda Riyo, Kaga Yoshimi, Kita Yosuke, Iwasaki Masaki, Takeshita Eri, Shimizu-Motohashi Yuko, Ishiyama Akihiko, Saito Takashi, Nakagawa Eiji, Sugai Kenji, Sasaki Masayuki, Inagaki Masumi	4. 巻 108
2. 論文標題 Adaptive behavior and its related factors in children with focal epilepsy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Epilepsy & Behavior	6. 最初と最後の頁 107092～107092
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.yebeh.2020.107092	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 星野恭子, 長尾ゆり, 木村一恵, 林雅晴, 北洋輔	4. 巻 124
2. 論文標題 生後3～4か月の睡眠リズムの確立と自閉スペクトラム症	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本小児科学会雑誌 = The journal of the Japan Pediatric Society	6. 最初と最後の頁 819-824
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Kita Yosuke, Ashizawa Fumiko, Inagaki Masumi	4. 巻 74
2. 論文標題 Prevalence estimates of neurodevelopmental disorders in Japan: A community sample questionnaire study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 118～123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12950	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Kita Yosuke, Ashizawa Fumiko, Inagaki Masumi	4. 巻 41
2. 論文標題 Is the motor skills checklist appropriate for assessing children in Japan?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Brain and Development	6. 最初と最後の頁 483～489
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.braindev.2019.02.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 Kitamura Yuzuki, Kita Yosuke, Okumura Yasuko, Kaga Yoshimi, Okuzumi Hideyuki, Ishikawa Yuji, Nakamura Miho, Inagaki Masumi	4. 巻 42
2. 論文標題 Discrepancy between musical ability and language skills in children with Williams syndrome	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Brain and Development	6. 最初と最後の頁 248～255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.braindev.2019.12.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 北 洋輔、白川 由佳、鈴木 浩太、江頭 優佳、加賀 佳美、北村 柚葵、西村 悠貴、山下 裕史朗、稲垣 真澄	4. 巻 52
2. 論文標題 注意欠如多動症児の協調運動機能が行為選択に及ぼす影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 脳と発達	6. 最初と最後の頁 5～10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11251/ojjsen.52.5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 奥村安寿子 , 北洋輔 , 加賀佳美	4. 巻 36
2. 論文標題 日本語によるコミュニケーションが不十分な子どもの学習困難を評価する：スウェーデン語母語児に対する学習・知能検査の事例より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 コミュニケーション障害学	6. 最初と最後の頁 99～112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 10件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 北洋輔
2. 発表標題 Movement ABC-2の日本人小児への適用
3. 学会等名 第 65 回日本小児神経学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 KITA, Yosuke
2. 発表標題 Developmental dyslexia in Japan
3. 学会等名 JSL2023（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 北洋輔
2. 発表標題 不器用児（発達性協調運動症児）の脳機能
3. 学会等名 第53回日本臨床神経生理学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 北洋輔
2. 発表標題 ADHDと発達性協調運動症
3. 学会等名 日本ADHD学会第15回総会（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 北洋輔
2. 発表標題 神経発達症児の教育的支援
3. 学会等名 第64回日本小児神経学術集会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 北洋輔
2. 発表標題 CLD児の保護者・教師・支援者に必要な発達障害・特別支援教育の基礎知識～家庭と学校をつなぐために～
3. 学会等名 2020年度バイリンガル・マルチリンガル子どもネット（BMCN）研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北洋輔
2. 発表標題 学習障害のアセスメントと支援
3. 学会等名 高知医療再生機構専門医養成支援事業 高知大学精神科 講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北 洋輔
2. 発表標題 多言語環境下にある発達障害児の認知特性
3. 学会等名 第49回日本臨床神経生理学会 学術大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北洋輔
2. 発表標題 発達性協調運動症の脳機能：ERP研究を中心に
3. 学会等名 第49回日本臨床神経生理学会 学術大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北洋輔
2. 発表標題 幼児期の子どもの読み書き基礎能力のアセスメントと力を伸ばすための働きかけ
3. 学会等名 2019年度BMCN研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 北洋輔、澤江幸則、古莊純一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 224
3. 書名 DCD・不器用な子も楽しめるスポーツがある社会のために	

1. 著者名 稲垣 真澄（編） 原由紀・金生由紀子・原恵子・北洋輔・斉藤まなぶ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 診断と治療社	5. 総ページ数 100
3. 書名 吃音？チック？読み書き障害？不器用？の子どもたちへ 保育所・幼稚園・巡回相談に役立つ”気づきと手立て”のヒント集	

1. 著者名 北 洋輔、平田 正吾	4. 発行年 2019年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 200
3. 書名 発達障害の心理学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

慶應義塾大学 文学部 心理学専攻 https://psy.flet.keio.ac.jp 慶應義塾大学 認知発達研究室 https://cogdevlab.jp
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加賀 佳美 (Kaga Yoshimi) (20436877)	山梨大学・大学院総合研究部・講師 (13501)	
	鈴木 浩太 (Suzuki Kota) (20637673)	四天王寺大学・教育学部・准教授 (34420)	
研究分担者	櫻井 千穂 (Sakurai Chiho) (40723250)	大阪大学・大学院人文学研究科（外国学専攻、日本学専攻）・准教授 (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	奥村 安寿子 (Okumura Yasuko) (60749860)	一橋大学・森有礼高等教育国際流動化機構・日本学術振興会 特別研究員 (PD) (12613)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フィンランド	University of Helsinki			